



## 黒木 亮 「法服の王国」を読んで

弁護士 田中 勇輝

先日読んだ『法服の王国』という裁判官を題材とした小説のご紹介をさせて頂きたいと思います。この小説は、原発差止訴訟の差止判決を出そう

とする一人の裁判官の苦悩やその意義をテーマとして描かれていますが、その内容は、裁判所という組織の構造や人事、裁判官の生活を明らかにするものです。その中では、過激な判決を出す裁判官に対する最高裁事務総局による人事差別が明らかにされています。

レッド・パージと呼ばれる共産主義排除が行われていた時代、裁判所内でも同じようなことが行われていたのです。裁判所という組織が、人権を守る最後の砦とは名ばかりに、その内部では左翼的な思想に対する差別的措置を徹底し、また、時の政権であった自民党に追従する判決しか出させないようにし続けてきたということが明らかにされています。

私自身も、ある程度はこういう事象があったということは知っていましたが、ここまで酷かったのかと大変驚きましたので、もし興味を持って頂ければ、一度お手にとって頂きたいと思います。裁判官の世界の闇について少しでもご理解頂けるかと思えます。

2013年11月28日には、広島高裁岡山支部において、同年7月の参院選についての選挙無効判決が出されました。

これは、最高裁で11月20日に一昨年12月の衆院選について違憲ではあるが選挙無効とはしないという判決が出た直後でしたので、非常に勇気のある判決であったと思います。

立法府及び行政府の判断に対して、おかしいものはおかしいと司法が述べる、それは、司法のあるべき本来の姿なのであると思います。

上記の小説の内容でも明らかにされているとおり、これまではそのような判決を出すことが非常に勇気のいることであり、それはおそらくこれからも容易には変わらないのでしょう。

しかし、現に勇気を持って判決を出す裁判官が高裁の裁判長にもいることは事実であり、裁判官の中にも良識を持った裁判官がおられるということも事実です。

このような小説が世に出ることによって、裁判所の組織構造が少しずつでも改善することを望むとともに、私自身も、弁護士として、そのために何が出来るかを考え続けていきたいと思えます。(黒木 亮「法服の王国(上)(下)」産経新聞出版)



海月(くらげ)食堂  
中央区相生町4丁目8-12  
電話/078-361-1858  
定休日/木曜日

今回ご紹介するお店は、カジュアルな中華料理のお店、海月(くらげ)食堂です。場所は神戸駅の西、徒歩3分ぐらいのところにあります。中華料理と一口に言っても高級中華からチェーン店までさまざまですが、海月食堂はカジュアルな雰囲気ながら豊富なメニューが楽しめるお店です。珍しいところではピータン(アヒルの卵)からフカヒレのスープまであります。このお店では担々麺が人気らしく、スープが濃厚で私は好きな味です(好き嫌いが別れるかもしれませんが)。皆さんもよければ一度、足を運んでみてください。(事務局A.T)



↑おすすめの担々麺セット950円



リーガルドクター  
の  
ごあんない

法律事務所絆ではリーガルドクター制度の募集を行っています。医師にかかりつけの医師がいるように、身近な法律問題を気軽に相談できる弁護士になりたいとの思いからこの制度を立ち上げました。困ったときに力になれるお一人お一人の顧問弁護士として活用していただければと思います。ご希望の方は是非お問い合わせください。 顧問料 年間52500円(税込)

### 【編集後記】

ようやく事務所ニュースが発刊でき、ほっとしています。これからも継続的にニュースを刊行したいと思っています。今後とも法律事務所絆をよろしく願いいたします。皆様もお体をご自愛ください。(事務局A.T)